学域名	医薬保健学域
学類名	保健学類
専攻名	検査技術科学専攻

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。
2. 医療人として自主的に学修し，その専門分野の知識・技術を活用できる。
3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。

以上の能力を修得し，かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって，医療社会に貢献できる者に学士（看護学），学士（保健学）の学位を授与する。

専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1)臨床検査に関わる技術と知識を体系的に学習している。多様な専門知識や技術を修得している。
2)さらに，学内および学外の医療現場での豊富な実習を通じて，専門技術者としての仕事の実際や，医療チームの一員としての責任を学んでいる。
3)研究室への配属を通じて，将来の医療科学を担う者として幅広い科学的知識、実験技術などを学び，将来の進歩や変化に対応するための能力を養うと同時に，指導者，研究者となるための基礎も身につけている。
以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

専攻のCP（カリキュラム編成方針）

初年度から履修する「専門基礎科目」を出発点とし，「医療工学・情報科学」，「臨床病態学」，「形態検査学」，「生物化学分析検査学」，「病因・生体防御検査学」，「生理機能検査学」，「検査総合管理学」の専門科目について，基礎からそれらの応用までを体系的に学ぶ。第三学年からは，少人数からなるいくつかの研究グループに分かれ，学生各自が関心を持つ専門分野を「卒業研究」において，より深く探求する。また，最終学年では臨地実習を経験し，臨床レベルで対応できるよう知識および技術を高める。なお，専門分野で開講される科目の大部分は国家試験受験に必要な必須科目であるが，各自の希望に応じて他専攻の科目，医療英語について自主的に履修計画を作成することができる。

専攻の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目，○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目，△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）

- 目標A　科学的思考の基礎能力を養う。人間と社会との関係性を学ぶ。患者さんと医療チームとのコミュニケーション能力を養う。
- 目標B　人間の構造と機能を系統的に理解し，専門教育の基礎を築く。
- 目標C　医学検査の基礎として疾病との関連を理解し，専門教育の基礎を築く。
- 目標D　保健医療と福祉との関係性を学び，専門教育の基礎を築く。
- 目標E　医療工学・情報科学の基礎知識を学び，理解力，観察力，判断力を養い，専門教育の基礎を築く。
- 目標F　臨床病態学として各種疾病を系統的に学び，それぞれ疾患の病態を理解し医学検査との関連性を学ぶ。
- 目標G　形態検査学として，病理検査・血液検査を系統的に学ぶ。
- 目標H　生物化学分析検査学として，検体検査・臨床化学検査・遺伝子検査を系統的に学ぶ。
- 目標I　病因・生体防御検査学として，病原微生物・血清免疫検査を系統的に学ぶ。
- 目標J　生理機能検査学として，臨床生理検査・検査機器の取り扱いを学ぶ。
- 目標K　検査総合管理学として，検査機器の管理法・検査データの精度管理法を学ぶ。
- 目標L　医療研究の手法を測定し，結果を集計し，それを発表し，論文としてまとめる。問題解決能力を修得する。
- 目標M　臨地実習を経験して，講義，実習で修得した知識，技術を臨床レベルで対応できるように高める。

専攻のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	目標A	目標B	目標C	目標D	目標E	目標F	目標G	目標H	目標I	目標J	目標K	目標L	目標M
	医薬保健学基礎	保健学，およびチーム医療について学び，保健学類の各専攻の内容を理解する。チーム医療における各職種の立場，役割を理解できるようになる。				◎			○									
	生体の構造	1.　人体の構造の解剖学的名称を覚える。 2.　臓器がどのような構造をし，その機能は何かを理解する。 3.　テキストを1冊読み通し，人体構造に関する広い知識を身につける。 4.　アカンサスポータルに組織の像を上げておくので、それも参考にして欲しい。 5.　アカンサスポータルで配布する問題集で復習をして知識を確実なものにする.					◎											
	生体の機能	人体を構成する器官，組織，細胞が持つ固有の働きや機能がどのような機序で発現するかを分子レベルまで掘り下げて説明できる。また、各個別の機能がどのように統合されて生体としての活動の恒常性が保たれるかも習得する。					◎											
	生物化学	・生体物質の分子構造と働きについて理解する。 ・酵素反応の特徴を理解する。					◎											
	臨床医学概論	・医学と医療について関心を持つことができる。 ・医学と医療について自分自身の経験を通して考えることができる。医療保険制度について理解を深める。 ・インターネットなどを用いて，医療に関する情報を集め，整理し，発表することができる。				○		◎	◎									
	解剖学実習	1.　光学顕微鏡の使用に習熟する。 2.　組織をスケッチして，テキストに記述されている構造を確認する。 3.　組織を観察しながら，その機能を理解する。 4.　病理組織を観察する際の基礎的正常組織を理解しておく。					◎											
	公衆衛生学	1. 一般環境の構成要因（空気・水・温熱・気象・放射線）の基本的特徴と健康との関連を理解する 2.　環境破壊の原因を理解し，その解決方法を修得する 3.　感染症の疫学，主要な感染症の疫学的特徴と動向，予防について修得する 4.　食品衛生と食中毒，栄養や生活習慣と健康について理解する 5.　産業保健・産業中毒における主要な健康影響・職業性疾患の現状と予防対策について修得する。							◎									

学域名	医薬保健学域
学類名	保健学類
専攻名	検査技術科学専攻

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1．保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。
2．医療人として自主的に学修し，その専門分野の知識・技術を活用できる。
3．専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
4．現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。
以上の能力を修得し，かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって，医療社会に貢献できる者に学士（看護学），学士（保健学）の学位を授与する。

専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1）臨床検査に関わる技術と知識を体系的に学習している。多様な専門知識や技術を修得している。
2）さらに，学内および学外の医療現場での豊富な実習を通じて，専門技術者としての仕事の実際や，医療チームの一員としての責任を学んでいる。
3）研究室への配属を通じて，将来の医療科学を担う者として幅広い科学的知識、実験技術などを学び，将来の進歩や変化に対応するための能力を養うと同時に，指導者，研究者となるための基礎も身につけている。
以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

専攻のCP（カリキュラム編成方針）

初年度から履修する「専門基礎科目」を出発点とし，「医療工学・情報科学」，「臨床病態学」，「形態検査学」，「生物化学分析検査学」，「病因・生体防御検査学」，「生理機能検査学」，「検査総合管理学」の専門科目について，基礎からそれらの応用までを体系的に学ぶ。第三学年からは，少人数からなるいくつかの研究グループに分かれ，学生各自が関心を持つ専門分野を「卒業研究」において，より深く探求する。また，最終学年では臨地実習を経験し，臨床レベルで対応できるよう知識および技術を高める。なお，専門分野で開講される科目の大部分は国家試験受験に必要な必須科目であるが，各自の希望に応じて他専攻の科目，医療英語について自主的に履修計画を作成することができる。

専攻の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目，○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目，△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）

専攻のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	目標A 科学的思考の基礎能力を養う。人間と社会との関係性を学ぶ。患者さんと医療チームとのコミュニケーション能力を養う。	目標B 人間の構造と機能を系統的に理解し，専門教育の基礎を築く。	目標C 医学検査の基礎として疾病との関連を理解し，専門教育の基礎を築く。	目標D 保健医療と福祉との関係性を学び，専門教育の基礎を築く。	目標E 医療工学・情報科学の基礎知識を学び，理解力，観察力，判断力を養い，専門教育の基礎を築く。	目標F 臨床病態学として各種疾病を系統的に学び，それぞれ疾患の病態を理解し医学検査との関連性を学ぶ。	目標G 形態検査学として，病理検査・血液検査を系統的に学ぶ。	目標H 生物化学分析検査学として，検体検査・臨床化学検査・遺伝子検査を系統的に学ぶ。	目標I 病因・生体防御検査学として，病原微生物・血清免疫検査を系統的に学ぶ。	目標J 生理機能検査学として，臨床生理検査・検査機器の取り扱いを学ぶ。	目標K 検査総合管理学として，検査機器の管理法・検査データの精度管理法を学ぶ。	目標L 医療研究の手法を測定し，結果を集計し，それを発表し，論文としてまとめる。問題解決能力を修得する。	目標M 臨地実習を経験して，講義，実習で修得した知識，技術を臨床レベルで対応できるように高める。
	環境衛生学実習	1. 水、空気、食品から、測定対象物質の物理化学的特性を考えて試料のサンプリングを行う。 2. 比色分析法、容量分析法の基本的事項を習得する。 3. 測定対象物質が測定される仕組みを理解する。 4. 測定に用いる標準物質や医薬用外劇物などの試薬の基本的な取り扱い方を習得する。 5. 実験器具や測定機器の取扱い方法を習得する。 6. 実験結果をグラフや表にまとめて分かりやすいレポートや簡単なプレゼンテーションが出来ることを目指す。							◎									
	医用工学概論	1．生体工学特性の物性構造や機能等について修得する。 2．医用計測機器を構成する電子素材の種類とその特性を修得する。 3．医用計測機器を構成する電気回路の特性を修得する。 4．電子回路の種類とその回路特性を修得する。 5．医用機器の安全対策と安全確保について修得する。								◎								
	医用工学概論実習	1．ブラウン管オシロスコープの操作を修得する。 2．電気回路の素材の特性を修得する。 3．半導体素子特性と並びに増幅回路の設計を修得する。 4．演算増幅器を用いた加算，減算，積分，微分回路の特性を修得する。 5．医用機器の漏れ電流の測定から安全対策と安全確保について修得する。								◎								
	病理学	1. 疾患に関する用語の意味を正確に理解する。 2. その用語を用いて疾患を表現できるようになる。 3. 各疾患の共通の概念を理解する。 4. 各臓器における代表的な疾患の基本的事項を習得する。					◎											
	薬物代謝学演習	・薬物や毒物の生体内代謝について理解する。 ・薬物や毒物の作用機構について理解する。 ・薬物の検査値に与える影響について理解する。 ・血中薬物濃度の測定法について理解する。					◎											
	医用物理学実験	研究目的を立て，それを達成するため，いかなる実験を行えばよいか。また，得られたデータはどの程度信頼でき，結果からどのようなことが言えるのか等，研究を行う上で最低限知っておかなければならない基礎的な知識を学ぶ。				△											△	

学域名	医薬保健学域
学類名	保健学類
専攻名	検査技術科学専攻

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。
2. 医療人として自主的に学修し，その専門分野の知識・技術を活用できる。
3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。

以上の能力を修得し，かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって，医療社会に貢献できる者に学士（看護学），学士（保健学）の学位を授与する。

専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1）臨床検査に関わる技術と知識を体系的に学習している。多様な専門知識や技術を修得している。
2）さらに，学内および学外の医療現場での豊富な実習を通じて，専門技術者としての仕事の実際や，医療チームの一員としての責任を学んでいる。
3）研究室への配属を通じて，将来の医療科学を担う者として幅広い科学的知識、実験技術などを学び，将来の進歩や変化に対応するための能力を養うと同時に，指導者，研究者となるための基礎も身につけている。
以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

専攻のCP（カリキュラム編成方針）

初年度から履修する「専門基礎科目」を出発点とし，「医療工学・情報科学」，「臨床病態学」，「形態検査学」，「生物化学分析検査学」，「病因・生体防御検査学」，「生理機能検査学」，「検査総合管理学」の専門科目について，基礎からそれらの応用までを体系的に学ぶ。第三学年からは，少人数からなるいくつかの研究グループに分かれ，学生各自が関心を持つ専門分野を「卒業研究」において，より深く探求する。また，最終学年では臨地実習を経験し，臨床レベルで対応できるよう知識および技術を高める。なお，専門分野で開講される科目の大部分は国家試験受験に必要な必須科目であるが，各自の希望に応じて他専攻の科目，医療英語について自主的に履修計画を作成することができる。

専攻の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目，○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目，△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）

専攻のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	目標A　科学的思考の基礎能力を養う。人間と社会との関係性を学ぶ。患者さんと医療チームとのコミュニケーション能力を養う。	目標B　人間の構造と機能を系統的に理解し，専門教育の基礎を築く。	目標C　医学検査の基礎として疾病との関連を理解し，専門教育の基礎を築く。	目標D　保健医療と福祉との関係性を学び，専門教育の基礎を築く。	目標E　医療工学・情報科学の基礎知識を学び，理解力，観察力，判断力を養い，専門教育の基礎を築く。	目標F　臨床病態学として各種疾病を系統的に学び，それぞれ疾患の病態を理解し医学検査との関連性を学ぶ。	目標G　形態検査学として，病理検査・血液検査を系統的に学ぶ。	目標H　生物化学分析検査学として，検体検査・臨床化学検査・遺伝子検査を系統的に学ぶ。	目標I　病因・生体防御検査学として，病原微生物・血清免疫検査を系統的に学ぶ。	目標J　生理機能検査学として，臨床生理検査・検査機器の取り扱いを学ぶ。	目標K　検査総合管理学として，検査機器の管理法・検査データの精度管理法を学ぶ。	目標L　医療研究の手法を測定し，結果を集計し，それを発表し，論文としてまとめる。問題解決能力を修得する。	目標M　臨地実習を経験して，講義，実習で修得した知識，技術を臨床レベルで対応できるように高める。
	生体物質化学実験	1.自分自身で実験を実行する。多くの実験課題は1人で実行できるよう準備してある。 2. マニュアル通りに手を動かすのではなく，よく考えながら注意深く観察して実験する姿勢を習得する。さらに考えたことや観察したことを適切な文章で表現できるようトレーニングする。重要な物質，現象，反応は，レポートの課題として取り上げてある。 3. 自分の実験結果を合理的に，かつ他人にわかりやすく整理する技術を習得する。基本的な解析・整理技術もレポートの課題として取り上げてある。				△											△	
	生命科学実験	生きたままの生物材料を用いて生命現象に理解できる。				△											△	
	情報管理学	1.　情報表現について修得する。 2.　コンピュータのハードウエア及びソフトウエアを修得する。 3.　アナログ信号とディジタル信号の変換とその特性について修得する。 4.　医療情報システムの仕組みについて修得する。 5.　コンピュータシステムについて修得する。														◎		
	生化学	・糖質・脂質・アミノ酸などの代謝について理解する。 ・代謝の調節機構について理解する。 ・遺伝性代謝病を分子レベルで理解する。											◎					
	臨床検査原論	1.　臨床検査技師，衛生検査技師等に関する法律を修得する。 2.　衛生検査技師法の歴史を修得する。 3.　医事関連法規を修得する。 4.　臨床検査技師の史的発展を修得する。 5.　臨床検査施設の現状を把握する。														◎		
	血液学	・赤血球の産生，形態，機能について理解する ・ヘモグロビンの構造と機能について理解する ・白血球の分類と各血球の産生，形態，機能について理解する ・血小板の産生と機能について理解する ・造血因子について理解する ・貧血、造血器悪性腫瘍について理解する。					○				◎	◎						
	微生物学総論	1. 各種微生物の生物学上の位置づけ、他の生物および環境との関わりを理解する。 2. 細菌の基本構造と増殖について理解する。 3. 病原細菌・感染症に関連した様々な事項（病原性、感染経路、免疫、化学療法、滅菌・消毒等）を理解する。												◎				
	生化学実習	・試薬の調整法および測定機器の原理・操作を修得する。 ・生体成分の分離法および定量法の原理を理解し，修得する。 ・酵素活性測定法および酵素法による生体成分の定量法の基礎を修得する。											◎					

学域名	医薬保健学域
学類名	保健学類
専攻名	検査技術科学専攻

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1．保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。
2．医療人として自主的に学修し，その専門分野の知識・技術を活用できる。
3．専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
4．現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。
以上の能力を修得し，かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって，医療社会に貢献できる者に学士（看護学），学士（保健学）の学位を授与する。

専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1）臨床検査に関わる技術と知識を体系的に学習している。多様な専門知識や技術を修得している。
2）さらに，学内および学外の医療現場での豊富な実習を通じて，専門技術者としての仕事の実際や，医療チームの一員としての責任を学んでいる。
3）研究室への配属を通じて，将来の医療科学を担う者として幅広い科学的知識、実験技術などを学び，将来の進歩や変化に対応するための能力を養うと同時に，指導者，研究者となるための基礎も身につけている。
以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

専攻のCP（カリキュラム編成方針）

初年度から履修する「専門基礎科目」を出発点とし，「医療工学・情報科学」，「臨床病態学」，「形態検査学」，「生物化学分析検査学」，「病因・生体防御検査学」，「生理機能検査学」，「検査総合管理学」の専門科目について，基礎からそれらの応用までを体系的に学ぶ。第三学年からは，少人数からなるいくつかの研究グループに分かれ，学生各自が関心を持つ専門分野を「卒業研究」において，より深く探求する。また，最終学年では臨地実習を経験し，臨床レベルで対応できるよう知識および技術を高める。なお，専門分野で開講される科目の大部分は国家試験受験に必要な必須科目であるが，各自の希望に応じて他専攻の科目，医療英語について自主的に履修計画を作成することができる。

専攻の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目，○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目，△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）

- 目標A　科学的思考の基礎能力を養う。人間と社会との関係性を学ぶ。患者さんと医療チームとのコミュニケーション能力を養う。
- 目標B　人間の構造と機能を系統的に理解し，専門教育の基礎を築く。
- 目標C　医学検査の基礎として疾病との関連を理解し，専門教育の基礎を築く。
- 目標D　保健医療と福祉との関係性を学び，専門教育の基礎を築く。
- 目標E　医療工学・情報科学の基礎知識を学び，理解力，観察力，判断力を養い，専門教育の基礎を築く。
- 目標F　臨床病態学として各種疾病を系統的に学び，それぞれ疾患の病態を理解し医学検査との関連性を学ぶ。
- 目標G　形態検査学として，病理検査・血液検査を系統的に学ぶ。
- 目標H　生物化学分析検査学として，検体検査・臨床化学検査・遺伝子検査を系統的に学ぶ。
- 目標I　病因・生体防御検査学として，病原微生物・血清免疫検査を系統的に学ぶ。
- 目標J　生理機能検査学として，臨床生理検査・検査機器の取り扱いを学ぶ。
- 目標K　検査総合管理学として，検査機器の管理法・検査データの精度管理法を学ぶ。
- 目標L　医療研究の手法を測定し，結果を集計し，それを発表し，論文としてまとめる。問題解決能力を修得する。
- 目標M　臨地実習を経験して，講義，実習で修得した知識，技術を臨床レベルで対応できるように高める。

専攻のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	目標A	目標B	目標C	目標D	目標E	目標F	目標G	目標H	目標I	目標J	目標K	目標L	目標M
	臨床化学	1. 測定原理を理解し，他の測定にその応用が可能となる。 2. 分析結果の評価を検体の特性（採血条件）および測定法から判断できる。											◎					
	検査機器概論	1.　測定機器の検出器の方法について修得する。 2.　検査機器の種類について修得する。 3.　検査機器の測定原理とその構造について修得する。 4.　検査機器の取扱を修得する。 5.　検査機器に使用・操作方法を修得する。														○		
	血液検査学	1. 血小板，凝固線溶系疾患の病態生理を理解する。 2. 血小板系，凝固線溶系の疾患の診断のための検査の原理，手技，臨床的意義を理解する。					○				◎	◎						
	遺伝子解析学演習	1.　分子生物学の基礎を身につける。 2.　生命科学上の成果をどのように医療に応用するかについて考える。											◎					
	病原微生物学Ⅰ	1. 主要細菌の形態学的・生化学的・生物学的特徴を理解する。 2. 主要細菌の培養法、染色法、検査法を理解する。 3. 主要細菌の病原性（病原因子）について理解する。 4. 主要細菌による感染症を理解する。												◎				
	免疫学	血清・免疫検査学を履修するにあたって、最低限の免疫学の基礎知識を修得する。									◎			◎				
	組み換えDNA演習	1.　情報高分子（DNA，RNA とタンパク質）の構造と機能を理解する。 2.　分子遺伝学の知識を習得する。 3.　バイオテクノロジーの基礎を習得する。											△					
	生理学演習	・前期の生理学に引き続き生体生命活動の基礎を理解する。 ・ヒトを対象とした実際の生理学的現象の計測のための、装置の配列，操作，計測，結果の整理，考察，資料検索，レポート作成を行う。 ・自主的に考え行動する生理学的実験操作の実際を習得するとともに、実験レポート作成技術を習得する。													◎			
	臨床化学実習	1. 実習書に従い、血清生化学検査項目を測定することができる。 2. 分析結果の評価を検体の特性（採血条件）や測定法から複合的に判断できる。 3. 測定原理を理解し，その応用が可能となる。											◎					
	病態生理学Ⅰ	・疾病の診断過程を理解する。 ・感染症について，微生物学で学んだ知識との連携で疾患を理解する。 ・自己免疫性疾患について理解する。 ・呼吸器疾患について理解する。 ・消化器疾患について理解する。					○	○			◎							

学域名	医薬保健学域
学類名	保健学類
専攻名	検査技術科学専攻

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1．保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。
2．医療人として自主的に学修し，その専門分野の知識・技術を活用できる。
3．専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
4．現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。
以上の能力を修得し，かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって，医療社会に貢献できる者に学士（看護学），学士（保健学）の学位を授与する。

専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1）臨床検査に関わる技術と知識を体系的に学習している。多様な専門知識や技術を修得している。
2）さらに，学内および学外の医療現場での豊富な実習を通じて，専門技術者としての仕事の実際や，医療チームの一員としての責任を学んでいる。
3）研究室への配属を通じて，将来の医療科学を担う者として幅広い科学的知識、実験技術などを学び，将来の進歩や変化に対応するための能力を養うと同時に，指導者，研究者となるための基礎も身につけている。
以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

専攻のCP（カリキュラム編成方針）

初年度から履修する「専門基礎科目」を出発点とし，「医療工学・情報科学」，「臨床病態学」，「形態検査学」，「生物化学分析検査学」，「病因・生体防御検査学」，「生理機能検査学」，「検査総合管理学」の専門科目について，基礎からそれらの応用までを体系的に学ぶ。第三学年からは，少人数からなるいくつかの研究グループに分かれ，学生各自が関心を持つ専門分野を「卒業研究」において，より深く探求する。また，最終学年では臨地実習を経験し，臨床レベルで対応できるよう知識および技術を高める。なお，専門分野で開講される科目の大部分は国家試験受験に必要な必須科目であるが，各自の希望に応じて他専攻の科目，医療英語について自主的に履修計画を作成することができる。

専攻の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目，○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目，△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）

専攻のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	目標A　科学的思考の基礎能力を養う。人間と社会との関係性を学ぶ。患者さんと医療チームとのコミュニケーション能力を養う。	目標B　人間の構造と機能を系統的に理解し，専門教育の基礎を築く。	目標C　医学検査の基礎として疾病との関連を理解し，専門教育の基礎を築く。	目標D　保健医療と福祉との関係性を学び，専門教育の基礎を築く。	目標E　医療工学・情報科学の基礎知識を学び，理解力，観察力，判断力を養い，専門教育の基礎を築く。	目標F　臨床病態学として各種疾病を系統的に学び，それぞれ疾患の病態を理解し医学検査との関連性を学ぶ。	目標G　形態検査学として，病理検査・血液検査を系統的に学ぶ。	目標H　生物化学分析検査学として，検体検査・臨床化学検査・遺伝子検査を系統的に学ぶ。	目標I　病因・生体防御検査学として，病原微生物・血清免疫検査を系統的に学ぶ。	目標J　生理機能検査学として，臨床生理検査・検査機器の取り扱いを学ぶ。	目標K　検査総合管理学として，検査機器の管理法・検査データの精度管理法を学ぶ。	目標L　医療研究の手法を測定し，結果を集計し，それを発表し，論文としてまとめる。問題解決能力を修得する。	目標M　臨地実習を経験して，講義，実習で修得した知識，技術を臨床レベルで対応できるように高める。
	寄生虫学演習	1．原虫感染症，寄生虫感染症，外部寄生虫症の病態を理解する。 2．原虫，吸虫，条虫，線虫，外部寄生虫の生物学的性状と感染経路を理解する。 3．原虫感染症，寄生虫感染症，外部寄生虫症の検査の原理，手技，診断技術を習得する。												◎				
	病理検査学	・病理組織標本の固定法，包埋法，薄切法，染色法を修得する。 ・病変とその病変に適切な染色法の組合せを修得する。 ・免疫染色の理論を理解し，染色法を修得する。										◎						
	臨床化学特論	・検査法で使われる化学反応および測定法の原理を理解する。 ・放射性同位元素検査技術学演習（時間割コード02379）の基礎として，RIの物理的および化学的特性を理解する。											◎					
	病原微生物学Ⅱ	1．ウイルスの基本的構造，形態および化学組成を理解する。 2．ウイルスの複製機構および試験管内培養法を理解する。 3．各種ウイルス感染症および癌化機構を理解する。												◎				
	細菌毒素論	・毒素を産生する細菌と毒素名を列挙できる。 ・毒素の生体への作用機序を説明できる。 ・毒素検出法の原理を理解する。												◎				
	血清・免疫検査学	1．臨床免疫学的検査の基本技術，感染症の免疫学的検査法，また自己免疫疾患の検査の実際を修得できる。 2　沈降反応，凝集反応，溶血反応，補体結合反応，毒素中和反応，リンパ球サブセットの測定，好中球機能，血清免疫グロブリン濃度，補体価の測定など，免疫機能検査のモニタリング能力を獲得できる。												◎				
	血液検査学実習	1．安全な血液採取と検体の取り扱い方を修得する。 2．血球算定，血小板系，凝固線溶系の検査の原理，手技，診断技術を修得する。 3．血液塗抹標本の作製，普通染色・特殊染色の原理，手技，診断技術を修得する。									◎							
	病理検査学実習	・病理組織標本作製技術を修得する。 ・免疫染色の理論を理解し，染色法を修得する。 ・顕微鏡による病理組織の観察法の基礎を身につけ									◎							
	病原微生物学実習	・グラム染色や抗酸菌染色の原理を理解し実施できる。 ・培地作製ができる。 ・生物性状試験の原理を理解して判定できる。 ・薬剤感受性試験の方法を理解し実施できる。												◎				
	臨床生理学	種々の生理機能検査の原理、手技、臨床適応が理解できる。													◎			

学域名	医薬保健学域
学類名	保健学類
専攻名	検査技術科学専攻

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。
2. 医療人として自主的に学修し，その専門分野の知識・技術を活用できる。
3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。

以上の能力を修得し，かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって，医療社会に貢献できる者に学士（看護学），学士（保健学）の学位を授与する。

専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1）臨床検査に関わる技術と知識を体系的に学習している。多様な専門知識や技術を修得している。
2）さらに，学内および学外の医療現場での豊富な実習を通じて，専門技術者としての仕事の実際や，医療チームの一員としての責任を学んでいる。
3）研究室への配属を通じて，将来の医療科学を担う者として幅広い科学的知識、実験技術などを学び，将来の進歩や変化に対応するための能力を養うと同時に，指導者，研究者となるための基礎も身につけている。
以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

専攻のCP（カリキュラム編成方針）

初年度から履修する「専門基礎科目」を出発点とし，「医療工学・情報科学」，「臨床病態学」，「形態検査学」，「生物化学分析検査学」，「病因・生体防御検査学」，「生理機能検査学」，「検査総合管理学」の専門科目について，基礎からそれらの応用までを体系的に学ぶ。第三学年からは，少人数からなるいくつかの研究グループに分かれ，学生各自が関心を持つ専門分野を「卒業研究」において，より深く探求する。また，最終学年では臨地実習を経験し，臨床レベルで対応できるよう知識および技術を高める。なお，専門分野で開講される科目の大部分は国家試験受験に必要な必須科目であるが，各自の希望に応じて他専攻の科目，医療英語について自主的に履修計画を作成することができる。

専攻の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目，○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目，△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）

専攻のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	目標A 科学的思考の基礎能力を養う。人間と社会との関係性を学ぶ。患者さんと医療チームとのコミュニケーション能力を養う。	目標B 人間の構造と機能を系統的に理解し，専門教育の基礎を築く。	目標C 医学検査の基礎として疾病との関連を理解し，専門教育の基礎を築く。	目標D 保健医療と福祉との関係性を学び，専門教育の基礎を築く。	目標E 医療工学・情報科学の基礎知識を学び，理解力，観察力，判断力を養い，専門教育の基礎を築く。	目標F 臨床病態学として各種疾病を系統的に学び，それぞれ疾患の病態を理解し医学検査との関連性を学ぶ。	目標G 形態検査学として，病理検査・血液検査を系統的に学ぶ。	目標H 生物化学分析検査学として，検体検査・臨床化学検査・遺伝子検査を系統的に学ぶ。	目標I 病因・生体防御検査学として，病原微生物・血清免疫検査を系統的に学ぶ。	目標J 生理機能検査学として，臨床生理検査・検査機器の取り扱いを学ぶ。	目標K 検査総合管理学として，検査機器の管理法・検査データの精度管理法を学ぶ。	目標L 医療研究の手法を測定し，結果を集計し，それを発表し，論文としてまとめる。問題解決能力を修得する。	目標M 臨地実習を経験して，講義，実習で修得した知識，技術を臨床レベルで対応できるように高める。
	病態生理学Ⅱ	1. 臓器システムごとの疾患病態を理解できる。 2. 臨床検査成績の読解力（病態識別力）を養い、検査法を比較できる。									◎							
	検体検査概論	1.腎機能単位ネフロンの構成解剖を理解する。 2.尿中への病的物質の出現機序を理解する。 3.糸球体濾過機能を説明できるようにする。 4.尿試験紙の使用時の注意事項・原理・共存物質との関係を熟知して使用・判定できるようにする。 5.尿試験紙の結果から病態推定および緊急性が判断できるようにする。 6.尿沈渣の分類・数の記載方法を理解し、病態を判断できるようにする。 7.ネフロンの部位と腎機能検査の対応関係を理解する。 8.糞便潜血の化学的検査法と免疫検査法の特徴を理解する。 9.喀痰内容物と疾患との対応を理解する。 10.計算盤を使っての脳脊髄液細胞数算定原理を理解する。 11.精液の一般的性状および精液検査法とその基準値を学習し、男性不妊症の精子形成異常検査について説明できるようにする。											◎					
	輸血検査学	1. 赤血球を中心とした抗原抗体反応について理解する。 2. 血液型検査，不規則抗体スクリーニング検査，交差適合試験の原理，手技，結果の解釈について理解する。 3. 輸血の副作用について理解する。 4. 血液製剤について理解する。										◎						
	分子生物学演習	1. 分子生物学の基礎を身につける。 2. 生命科学上の成果をどのように医療に応用するかについて考える。											◎					
	ウイルス学特論	ウイルス感染細胞を用いて、ウイルスの遺伝子、免疫学的診断法を学ぶ 。 1. HCVレプリコン細胞からのウイルス遺伝子の抽出する。 2. HCVレプリコン細胞からのウイルス蛋白の同定できる。 3. インターフェロンによる抗ウイルス作用を理解する。 4. HCV感染症の血清診断ができるようになる。												◎				

学域名	医薬保健学域
学類名	保健学類
専攻名	検査技術科学専攻

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。
2. 医療人として自主的に学修し，その専門分野の知識・技術を活用できる。
3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。

以上の能力を修得し，かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって，医療社会に貢献できる者に学士（看護学），学士（保健学）の学位を授与する。

専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1)臨床検査に関わる技術と知識を体系的に学習している。多様な専門知識や技術を修得している。
2)さらに，学内および学外の医療現場での豊富な実習を通じて，専門技術者としての仕事の実際や，医療チームの一員としての責任を学んでいる。
3)研究室への配属を通じて，将来の医療科学を担う者として幅広い科学的知識、実験技術などを学び，将来の進歩や変化に対応するための能力を養うと同時に，指導者，研究者となるための基礎も身につけている。
以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

専攻のCP（カリキュラム編成方針）

初年度から履修する「専門基礎科目」を出発点とし，「医療工学・情報科学」，「臨床病態学」，「形態検査学」，「生物化学分析検査学」，「病因・生体防御検査学」，「生理機能検査学」，「検査総合管理学」の専門科目について，基礎からそれらの応用までを体系的に学ぶ。第三学年からは，少人数からなるいくつかの研究グループに分かれ，学生各自が関心を持つ専門分野を「卒業研究」において，より深く探求する。また，最終学年では臨地実習を経験し，臨床レベルで対応できるよう知識および技術を高める。なお，専門分野で開講される科目の大部分は国家試験受験に必要な必須科目であるが，各自の希望に応じて他専攻の科目，医療英語について自主的に履修計画を作成することができる。

専攻の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目，○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目，△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）

専攻のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	目標A 科学的思考の基礎能力を養う。人間と社会との関係性を学ぶ。患者さんと医療チームとのコミュニケーション能力を養う。	目標B 人間の構造と機能を系統的に理解し，専門教育の基礎を築く。	目標C 医学検査の基礎として疾病との関連を理解し，専門教育の基礎を築く。	目標D 保健医療と福祉との関係性を学び，専門教育の基礎を築く。	目標E 医療工学・情報科学の基礎知識を学び，理解力，観察力，判断力を養い，専門教育の基礎を築く。	目標F 臨床病態学として各種疾病を系統的に学び，それぞれ疾患の病態を理解し医学検査との関連性を学ぶ。	目標G 形態検査学として，病理検査・血液検査を系統的に学ぶ。	目標H 生物化学分析検査学として，検体検査・臨床化学検査・遺伝子検査を系統的に学ぶ。	目標I 病因・生体防御検査学として，病原微生物・血清免疫検査を系統的に学ぶ。	目標J 生理機能検査学として，臨床生理検査・検査機器の取り扱いを学ぶ。	目標K 検査総合管理学として，検査機器の管理法・検査データの精度管理法を学ぶ。	目標L 医療研究の手法を測定し，結果を集計し，それを発表し，論文としてまとめる。問題解決能力を修得する。	目標M 臨地実習を経験して，講義，実習で修得した知識，技術を臨床レベルで対応できるように高める。
	検体検査学実習	1. 尿試験紙の使用時の注意事項・原理・共存物質との関係を熟知して使用・判定できるようにすると同時に、従来からの化学的測定法も体験を通しその利点・欠点を理解する。 2. 尿試験紙の結果から病態推定および緊急性が判断できるようにする。 3.尿沈渣の分類・数の記載報告ができ、病態を判断できるようにする。 4. 糞便潜血の化学的検査法と免疫検査法の特徴を理解する。 5. 計算盤を使っての脳脊髄液細胞数算定を行えるようにする。											◎					
	臨床細胞学実習	・検体の採取法について理解する。 ・鏡検上注意すべき細胞について理解する。 ・細胞の良・悪性の判定について理解する。 ・各臓器の特有の悪性所見について理解する。										◎						
	臨床生理学演習	生理機能検査を実際に行うことにより，検査機器の原理，構造，安全性を理解し,検査技術を修得できる。													◎			
	血清・免疫検査学実習	・臨床免疫学的検査の基本技術，感染症の免疫学的検査法，また自己免疫疾患の検査の実際を修得する。 ・沈降反応，凝集反応，溶血反応，補体結合反応，毒素中和反応，リンパ球サブセットの測定，好中球機能，血清免疫グロブリン濃度，補体価の測定など，免疫能モニタリングができる。												◎				
	放射性同位元素検査技術学演習	・放射線測定の原理と生体への影響を理解する。 ・試料計測（in−vitro）検査法および体外計測（in−vivo）検査法を理解する。 ・放射性医薬品の特徴と条件を理解する。 ・放射線安全管理とRIの安全取扱いを理解する。											○					
	卒業研究	1.　現在，臨床検査科学領域における研究課題が何かを修得する。 2.　問題解決のための科学的な進め方（研究計画）を修得する。 3.　研究のための専門的な知識，技能を修得する。 4.　研究のための倫理面での問題を学習する。 5.　研究成果を論文としてまとめることにより，科学的な記載方法を修得する。 6.　口頭発表することにより，プレゼンテーションの方法，態度を修得する。															◎	
	医療英語Ⅰ	1. 医療の場の英語に慣れる。 2. 基本的な医用英語を覚える。 3. 英語の取扱説明書を理解するために良く出てくる表現を知る。 4. 英語のメールの基本形式を理解するとともに、理解しやすい構成のコツを知る。 5. 多様な英語の発音を聞き取るコツを修得する。				△												

学域名	医薬保健学域
学類名	保健学類
専攻名	検査技術科学専攻

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。
2. 医療人として自主的に学修し，その専門分野の知識・技術を活用できる。
3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。

以上の能力を修得し，かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって，医療社会に貢献できる者に学士(看護学)，学士(保健学)の学位を授与する。

専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

1)臨床検査に関わる技術と知識を体系的に学習している。多様な専門知識や技術を修得している。
2)さらに，学内および学外の医療現場での豊富な実習を通じて，専門技術者としての仕事の実際や，医療チームの一員としての責任を学んでいる。
3)研究室への配属を通じて，将来の医療科学を担う者として幅広い科学的知識、実験技術などを学び，将来の進歩や変化に対応するための能力を養うと同時に，指導者，研究者となるための基礎も身につけている。
以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

専攻のCP(カリキュラム編成方針)

初年度から履修する「専門基礎科目」を出発点とし，「医療工学・情報科学」，「臨床病態学」，「形態検査学」，「生物化学分析検査学」，「病因・生体防御検査学」，「生理機能検査学」，「検査総合管理学」の専門科目について，基礎からそれらの応用までを体系的に学ぶ。第三学年からは，少人数からなるいくつかの研究グループに分かれ，学生各自が関心を持つ専門分野を「卒業研究」において，より深く探求する。また，最終学年では臨地実習を経験し，臨床レベルで対応できるよう知識および技術を高める。なお，専門分野で開講される科目の大部分は国家試験受験に必要な必須科目であるが，各自の希望に応じて他専攻の科目，医療英語について自主的に履修計画を作成することができる。

専攻のカリキュラム

専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目，○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目，△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	目標A 科学的思考の基礎能力を養う。人間と社会との関係性を学ぶ。患者さんと医療チームとのコミュニケーション能力を養う。	目標B 人間の構造と機能を系統的に理解し，専門教育の基礎を築く。	目標C 医学検査の基礎として疾病との関連を理解し，専門教育の基礎を築く。	目標D 保健医療と福祉との関係性を学び，専門教育の基礎を築く。	目標E 医療工学・情報科学の基礎知識を学び，理解力，観察力，判断力を養い，専門教育の基礎を築く。	目標F 臨床病態学として各種疾病を系統的に学び，それぞれ疾患の病態を理解し医学検査との関連性を学ぶ。	目標G 形態検査学として，病理検査・血液検査を系統的に学ぶ。	目標H 生物化学分析検査学として，検体検査・臨床化学検査・遺伝子検査を系統的に学ぶ。	目標I 病因・生体防御検査学として，病原微生物・血清免疫検査を系統的に学ぶ。	目標J 生理機能検査学として，臨床生理検査・検査機器の取り扱いを学ぶ。	目標K 検査総合管理学として，検査機器の管理法・検査データの精度管理法を学ぶ。	目標L 医療研究の手法を測定し，結果を集計し，それを発表し，論文としてまとめる。問題解決能力を修得する。	目標M 臨地実習を経験して，講義，実習で修得した知識，技術を臨床レベルで対応できるように高める。
	病態生理学特論	1. 患者との関係，医療倫理，診療録の記載方法などの修得する。 2. 主な症状の病態および鑑別診断を理解する。 3. 基本的な身体所見の取り方および病態との関係を理解する。 4. 臨床疫学，大規模臨床試験を基にした科学的根拠に基づく医療を理解する。 5. 医療制度および現在直面する医療問題を理解する。									○							
	検査管理学	・臨床検査部門の管理運営に関して検体採取、検体管理、検査技術管理、安全管理、災害予防、リスクマネジメントを修得する。 ・統計学を応用し，内部，外部の精度管理を具体的な演習を通して精度管理ができる。 ・検査結果の評価や保存・活用などの方法を修得する。														◎		
	検体検査学・免疫学臨地実習	・病院臨床検査室において，血液，尿，便，喀痰，脊髄液その他の検体の採取，保存，一般性状検査を体験し，一般検査に関する必要事項を習得する。 ・体験を通し一般検査の意義や患者さんとの応対を学ぶ。 ・病院における一般検査業務の流れを理解する。 ・患者さんの検体検査の補助に従事し，実際の短時間処理と精度管理を習得する。 ・自動分析機器による尿検査とそれを補完する用手法検査の組み合わせを習得する。 ・感染症や腫瘍マーカーなど重要検査項目における陽性時のデータ確認のための対処法を習得する。 ・免疫検査における精度管理を習得する。												◎				◎
	血液・輸血検査学臨地実習	1. 自動測定機器による血球計算，形態検査の原理，手技，診断技術を理解する。 2. 自動測定機器による凝固線溶系の検査の原理，手技，診断技術を理解する。 3. 試験管法および自動測定機器による血液型検査，不規則抗体スクリーニング検査，交差適合試験の原理，手技，診断技術を理解する。										◎						◎
	輸血検査学特論	1. ABO血液型検査オモテ・ウラ試験不一致の原因検索のための検査について十分理解する。 2. 輸血後感染症について理解する。(NAT、ウインドウピリオドについて) 3. 造血幹細胞移植の適応，成績，合併症について理解する。 4. 輸血後graft-versus-host disease(GVHD)および幹細胞移植後GVHDについて理解する。										◎						
	病理検査学臨地実習	・病理組織、細胞診標本作製技術を修得する。 ・基本的な細胞同定法を修得する。 ・各種疾患の肉眼観察と病理学の復習により、疾患の概要を把握する。										◎						◎

学域名	医薬保健学域
学類名	保健学類
専攻名	検査技術科学専攻

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1．保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。
2．医療人として自主的に学修し，その専門分野の知識・技術を活用できる。
3．専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。
4．現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。
以上の能力を修得し，かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって，医療社会に貢献できる者に学士（看護学），学士（保健学）の学位を授与する。

専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1）臨床検査に関わる技術と知識を体系的に学習している。多様な専門知識や技術を修得している。
2）さらに，学内および学外の医療現場での豊富な実習を通じて，専門技術者としての仕事の実際や，医療チームの一員としての責任を学んでいる。
3）研究室への配属を通じて，将来の医療科学を担う者として幅広い科学的知識、実験技術などを学び，将来の進歩や変化に対応するための能力を養うと同時に，指導者，研究者となるための基礎も身につけている。
以上の人材養成目標に到達した者に学士（保健学）の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには，以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。

専攻のCP（カリキュラム編成方針）

初年度から履修する「専門基礎科目」を出発点とし，「医療工学・情報科学」，「臨床病態学」，「形態検査学」，「生物化学分析検査学」，「病因・生体防御検査学」，「生理機能検査学」，「検査総合管理学」の専門科目について，基礎からそれらの応用までを体系的に学ぶ。第三学年からは，少人数からなるいくつかの研究グループに分かれ，学生各自が関心を持つ専門分野を「卒業研究」において，より深く探求する。また，最終学年では臨地実習を経験し，臨床レベルで対応できるよう知識および技術を高める。なお，専門分野で開講される科目の大部分は国家試験受験に必要な必須科目であるが，各自の希望に応じて他専攻の科目，医療英語について自主的に履修計画を作成することができる。

専攻の学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目，○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目，△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）

- 目標A　科学的思考の基礎能力を養う。人間と社会との関係性を学ぶ。患者さんと医療チームとのコミュニケーション能力を養う。
- 目標B　人間の構造と機能を系統的に理解し，専門教育の基礎を築く。
- 目標C　医学検査の基礎として疾病との関連を理解し，専門教育の基礎を築く。
- 目標D　保健医療と福祉との関係性を学び，専門教育の基礎を築く。
- 目標E　医療工学・情報科学の基礎知識を学び，理解力，観察力，判断力を養い，専門教育の基礎を築く。
- 目標F　臨床病態学として各種疾病を系統的に学び，それぞれ疾患の病態を理解し医学検査との関連性を学ぶ。
- 目標G　形態検査学として，病理検査・血液検査を系統的に学ぶ。
- 目標H　生物化学分析検査学として，検体検査・臨床化学検査・遺伝子検査を系統的に学ぶ。
- 目標I　病因・生体防御検査学として，病原微生物・血清免疫検査を系統的に学ぶ。
- 目標J　生理機能検査学として，臨床生理検査・検査機器の取り扱いを学ぶ。
- 目標K　検査総合管理学として，検査機器の管理法・検査データの精度管理法を学ぶ。
- 目標L　医療研究の手法を測定し，結果を集計し，それを発表し，論文としてまとめる。問題解決能力を修得する。
- 目標M　臨地実習を経験して，講義，実習で修得した知識，技術を臨床レベルで対応できるように高める。

専攻のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期	目標A	目標B	目標C	目標D	目標E	目標F	目標G	目標H	目標I	目標J	目標K	目標L	目標M
	臨床生理学臨地実習	生理機能検査の基本的技能を身につける。													◎			◎
	臨床化学臨地実習	臨床検査技師の役割と責任を知り，積極的に参加し、分析結果の評価を検体の特性（採血条件），測定法，病態から複合的に判断できる。											◎					◎
	病原微生物学臨地実習	微生物学的検査の基本的技能を身につける。												◎				◎
	標識技術学演習	実際の検査の現場や研究室で繁用されている検査法の理論的基盤を理解し応用力を身につける。											△	△				
	生体情報計測学	細胞解析のみでなく，多様な可能性を有するフローサイトメトリー法の基本原理を理解する。												△				
	遺伝子診断学	1．ゲノム情報を医療へ応用するための基礎知識を修得する。 2．家系図から疾患の遺伝形式を理解できる。 3．遺伝子診断法の基礎技術を修得する。 4．遺伝学的検査のガイドラインを学び、遺伝子医療に対する倫理観を備える。									◎							
	微生物遺伝子学	1．ウイルスのもつ DNA または RNA 構造を理解する。 2．各種ウイルス遺伝子の発現調節機構を理解する。 3．癌遺伝子および癌抑制遺伝子の機能を理解する。												△				
	細胞生物学	最新の知識を学び，応用するための論文読解能力，プレゼンテーション技術を修得する。					△	△						△				
	リハビリテーション医学概論	1．リハビリテーションの概念を理解できる。 2．リハビリテーション医療を行う上での医療技術者の役割を理解できる。									○							
	MRI技術学	1．MRIの信号収集と画像構築の原理を理解する。 2．各種撮像法の臨床利用について習熟する。 3．装置管理および安全管理について習得する。								△		△						
	超音波検査技術学	1．超音波装置の構造と動作原理を理解する. 2．超音波画像の形成について理解する. 3．各種超音波画像やアーチファクトについての知識を習得する.								△		△						
	医療英語II	・できるだけ多くの英語の研究論文を読み、早く論文の要点を理解できるように訓練する。 ・興味ある参考文献を自分で入手し、読んで理解できる。				△												